

日 時	令和7年1月30日（木）15：30～17：00		
場 所	岐阜市役所 6階 6-1 大会議室		
出席者	関係機関		1 名
	一般・特定・障害児相談支援事業所		16 名
	障害福祉サービス提供事業所		18 名
	委託事業所		4 名
			（合計 39 名）

○検討テーマ…「強度行動障がいへの対応について」

これまでに強度行動障がいの支援体制・人材育成等について協議し、岐阜市における支援の在り方・チーム作りについて協議してきた。

今回は、強度行動障がい者等への支援について、各事業所での受け入れを促進していくために、関係機関と円滑な情報共有と連携の方法、強度行動障がい児者対応チーム支援の展開や必要な支援体制について協議した。

1. はじめに

- ・岐阜市障害者総合支援協議会の概要
- ・第7回専門部会（テーマ別分科会）の趣旨や流れについて

2. 取り組みについて

岐阜市では、2年ほど前から強度行動障がいの方の支援に苦慮されている事業所をチームで巡回し、課題解決する方法を検討してきた。今年度、第二恵光の利用者について、ル・リアンの平下氏と基幹相談支援サテライトや岐阜市障がい福祉課でチームを組んで支援する試みを始めた。

来年度以降は巡回先を増やして取り組んでいけたらと考えている。

3. パネルディスカッション

テーマ：「岐阜市における強度行動障がい児者対応チーム支援の展開について」

パネリスト：	岐阜県発達障害者支援センター	谷口 雅美 様
	社会福祉法人岐阜県福祉事業団	
	岐阜県立ひまわりの丘第一学園	矢島 樹里 様
	社会福祉法人至誠会	
	ル・リアン	平下 直樹 様

□社会福祉法人至誠会 ル・リアン

- ・アセスメントパッケージは、強度行動障がいの状態を客観的に評価するシートであり、本人の状況を正確に捉え切れているかどうかが重要で、客観的に評価するシートとなっている。
- ・ABC記録は、課題となっている行動に対して記録していくシートである。まず対象者の行動に対してありのままの事前状況を記入する。事後の状況に対しても、対象者の行動と職員の対応、その後の本人の行動を具体的に書く。これらの状況を整理して共有していくことも目的の一つである。
- ・記録することで状況が整理され、支援計画に繋がっていく。強度行動障がいの方の支援は大

変だが、必ず最初の状態があったと思うので、それぞれが持っている特性の理解をできる限り正確にすることが支援に繋がっていくと考える。

□社会福祉法人岐阜県福祉事業団 岐阜県立ひまわりの丘第一学園

- ・第一学園は障がい児の入所施設であり、強度行動障がいの方は半数ほどみえる。強度行動障がいの状態の児でなくても、気になる児については ABC シートをアレンジしたものを使って気になる行動を記録している。記録を取った後、動機付けアセスメント尺度を使って分析し、支援方法を考えていく。それと同時に、ABC 記録の中で気になるものは、冰山モデルに落とし込んで具体的な支援策を考えている。強度行動障がいについての勉強とこういった記録の具体的な使い方を理解することが課題と感じている。

□岐阜県発達障害者支援センター

- ・当センターでは人材育成として、強度行動障がい支援者養成研修（基礎・実践）を修了された方を対象に「強度行動障がい支援者養成フォローアップ研修」を実施し、その中で応用行動分析の考え方をもとに、行動を A（きっかけ）B（行動）C（結果）分析して、支援の方策をたてるストラテジーシートの作成ワークを行っている。行動を観察して記録をつけることが必要となるが、日々の業務の中で継続して記録を取り、スタッフ間で共有するには工夫が必要である。また課題となる行動を分析することにも練習が必要であるため、今後も研修は継続していく予定である。

4. 意見交換

- ・相談支援専門員をやっている。強度行動障がいに近い状態の方は何人かおり、支援者をかみつくなどの行動があり、うちでは見るのが難しいから他の事業所に移ってほしいというような相談がある。他事業所と併用しており、別の事業所や学校では落ち着いている方もおり、環境や支援の仕方で行動は変わると思う。こういった取り組みで、事業所が支援方法を見直しながら受けいれてもらいたい。
 - ・問題行動が多い利用者がいる。強度行動障がいではないが、両手の爪を血が出るまで噛んでしまう。このように記録し分析する方法は他の障がいにも活用できると思った。
 - ・相談支援専門員をやっている。シートが複雑で量も多いので、すべて記入となるとハードルが高い。例えば、まずはこの部分からとか、とりあえずこのシートからといったような使い方のコツを知りたい。
- 相手の理解を深めるために、ABC 記録とスキャタープロットを記録するだけでも変わる。

5. まとめ

- ・様式を使用することで、利用者を客観的にアセスメント、行動分析ができる。その利用者の特性の理解に繋がる。まずは記録するところから始めるとよい。
- ・客観的な記録があることで、支援者同士が共有できるツールとなり、利用者の行動分析ができる。その情報をもとに効果的な支援方法を検討することができる。
- ・チーム支援を通して、本人が安心して過ごせるようになり、また、強度行動障がい児者を支援できる事業所が増えるといい。

6. 当日の様子



7. 当日アンケートの結果

①本日の専門部会全体について

良かった	…52.9%
概ね良かった	…35.3%
普通	…11.8%
あまり良くなかった	…0.0%
良くなかった	…0.0%

②強度行動障がいへの取り組みについて

理解できた	…52.9%
概ね理解できた	…47.1%
普通	…0.0%
あまり理解できなかった	…0.0%
理解できなかった	…0.0%

③パネルディスカッション「岐阜市における強度行動障がい児者対応チーム支援の展開」について

良かった	…41.2%
概ね良かった	…52.9%
普通	…5.9%
あまり良くなかった	…0.0%
良くなかった	…0.0%

④意見交換について

良かった	…47.0%
概ね良かった	…41.2%
普通	…5.9%
あまり良くなかった	…0.0%
良くなかった	…5.9%

⑤今回の感想や、強度行動障がい児者への支援について思うこと、感じていること等 お聞かせください

- ・記録様式の使い方等についてオンライン講習があると良い。

- ・強度行動障がいへの支援の中で、これまで「記録する」ことが一番難しかったように思う。職員によって、障がいの捉え方が違ったり、記録しても変わらないし…と、だんだん記録も少なくなってきたこともある。今回、このような機会をいただき、職員それぞれがアセスメントを取ることで、職員側の考え方や、利用者の新たな一面を発見できると思うので、活用させていただき、チームで支援力を高めていけたらと思っている。
- ・ABC 記録シートなどの資料がほしい。対応するスタッフによっても見方は違ってくるので、チームでの意見交換や、日々の記録は大事だと改めて思った。
- ・分科会の中でも意見が出ていたが、書式を HP 上に公開しどの事業所でも日々の記録部分だけでも活用できるような体制になると良い。
- ・強度行動障がいの問題となる行動に対する対応の検討のためには、その行動についての入念なアセスメントが重要であることを再認識した。
- ・グループホームからの出席が多かったことが興味深かった。強度行動障がいの特性のある方々は、小規模でアットホームなグループホームの方が環境的に適した環境だと思う。今回のテーマ『チーム支援』という観点から見ても、支援の共有しやすいグループホームの方が支援も届くのではないかと感じた。
- ・支援者側の課題だと理解している。表現の仕方に問題があるだけで、それらの意味するものを理解したいと思った。可視化することデータを取ることの大切さを学んだ。
- ・今回の議題にあった恵光学園の取り組みのその後と、岐阜市で立ち上げたチームとの具体的なやり取りについて教えてもらえるとよい。
- ・強度行動障がい児者は支援者が共通理解を持って対応することで、本人の困り感が軽減されて落ち着いて生活できるようになると思うが、現場ではどうしても目の前の行動障がいに着目してしまい、前後の行動を分析する事が難しい現状があると思う。その中でアドバイザー的なチームに補佐してもらえるとよいと思う。
- ・チームでより手厚く支援していけるような体制は強度行動障がいに限らず専門チームとしてあってもよいように思った。
- ・支援者のスキルを上げる事が支援者、利用者の為になる事が分かった。
- ・強度行動障がい児者への支援は時間も根気も必要。実質担当者が固定してしまうこともあるので、組織で良い支援につながるよう、記録を効率的に取ることは大切だと思った。時間で記録するのは取り組みやすそうに思った。
- ・個別ケースに対応するチーム支援だけではなく、受け入れ先確保（社会資源開拓）の為に事業所へのアプローチも同時に進めて欲しい。
- ・強度行動障がいに限らず、それに近い利用者の支援にも役立つ内容であった。ただ資料配布がなかったことは残念。
- ・受け入れ可能な事業所やサービスを提供されている事業所が限られて選択肢がなくなっていきそうで、新規頼みになっていきそうで心配。
- ・自分がいた施設では、同じような ABC 記録やスキャッタープロットを用いて記録をとっていくことが非常に困難であると思う。またこれから用いることにスタッフの負担とシステムの理解が必要で、漠然と日々の記録以外の部分を残していくとなると利用者をより観察していかななくてはならなくて、難しいことであると感じた。
- ・強度行動障がいの状態にある方への支援について、困っている事業所はたくさんあると思う。困り感を共有したり、話し合う場が増えるとよい。
- ・障がい児の支援の経験がないため、どういう傾向があると今後強度行動障がいにつながっていくのか聞きたいと思った。